

2010/1/8

柏の景気情報（平成21年12月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成21年12月分）

○ 調査期間 : 平成21年12月14日 ~ 12月18日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	76	71.0%
建設	19	15	78.9%
製造	23	17	73.9%
卸・小売	43	29	67.4%
サービス	22	15	68.2%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成21年12月の調査結果のポイント】

《デフレの影響が顕著に》

○12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲59.2(前月水準▲62.6)となり、マイナス幅が△3.4ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲41.1(同▲75.0)であり、マイナス幅が△33.9ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲46.6(同▲35.7)、建設業▲73.3(同▲66.6)、卸小売業▲68.9(同▲66.6)である。

【建設業】では、「社会全体が良くなると回復は厳しいと思われます」(一般土木建築工事業)、「柏市公設市場移転計画や柏駅東口再開発事業計画が凍結され、今後の柏市発注の公共事業が不安」(土木工事業)、「年内工事は忙しい状態だが、業況回復に結びつくまでにはいたらない」(板金・金物工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「引き続き建築基準法の改正により国交省認定の取得費用が多いため、経営に大きく負担を強いられている」(一般産業用機械設備製造業)、「ユーザー元の設備導入はまだ聞こえてこず、厳しい状況にある。関係業者は国内欧米ともに設備投資の声がかかってこなく全く良くならない。車関係のパーツ業者ではアジア輸出が好調」(その他の機械・同部分品製造業)などの声が上がってきた。

【卸小売業】では、「ボーナスの減少、景況悪化に対する自己防衛等で売上上昇は当分見込みづらい。下取りセール、キャッシュバック等の策で需要の喚起を図る」(百貨店)、「業界全体の不況感おさまらず、お客様の注文購入が多様化してきた。特にインターネットを通しての購入形態と売り場面積の増加がみられる」(書籍・文房具小売業)、「周辺への大型店の出店、景気の低迷による来街者の減少に、客単価の下落が加わり、賞与の時期であるが、全く売上不振である」(各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「宿泊宴会とも売り上げ減少。販売客数販売件数減も、原価面を抑制、経費面特に光熱費が抑制されているが、利益はマイナス。一般企業の業績悪化から利益減少」(ホテル)のコメントがあった。

◎デフレの影響

各業種から、「仕入値は不変ですが、販売価格は原価値になり、利益はほとんど無い状況です。デフレ対策を他社はどのように考えているのだろうか」(管工事業)、「柏地区の景況は日本全体と同様です。デフレスパイラルの中政策のブレ・タイムラグもあり、企業業績の回復は当面見込めず、個人消費の伸びも見込めないでしょう」(百貨店)、「デフレの影響で買いたしのお客様の仕入れ(購入)量や価格も慎重な取引となって消費不況も長引き経営改善に打撃。状況の難しさから打つ手が厳しい」(食料・飲料卸売業)、「キャンペーンを実施したが、デフレの影響か飲物半額セールであったが、お客様の反応はそれほどではなかった。宴会シーズンではあったが、土日に集客は集中している」(酒場・ビヤホール)などの声が上がっていた。

◎先行き不安

各業種から、「先行きの不安感が景気を低迷させている。活気が出れば不況を持ちこたえられる力は十分にあると思う」(電気工事業)、「12月だというのに仕事量が少ない。この先が心配です」(紙製容器製造業)、「ユーザーの状況が数カ月ごとに変更となるので、先の事はまだまだ不透明」(その他の鉄鋼業)などのコメントがあった。

◎季節商材回復

各業種から、「クリスマス・新学期関係の受注が昨年並みに回復」(食料品・事務用品小売業)、「12月度入店客数は前年並みの推移となったが、クリスマスギフトなどの下見客が多く、売上高は前年を下回る推移となったが、季節商材にも動きが見られ、売上高も徐々に回復した。中旬にはクリスマスの音楽イベントを開催し、集客を図れたことから売上にもつながった。後半もクリスマスを盛り上げ売上に繋げていく」(各種商品小売業)などのコメントがあげられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲ 61.6	▲ 64.7	▲ 62.5	▲ 62.9	▲ 53.8
8月	▲ 53.9	▲ 57.1	▲ 50.0	▲ 62.0	▲ 40.0
9月	▲ 56.0	▲ 50.0	▲ 62.5	▲ 62.0	▲ 42.8
10月	▲ 57.1	▲ 71.4	▲ 58.8	▲ 63.3	▲ 31.2
11月	▲ 62.6	▲ 66.6	▲ 75.0	▲ 66.6	▲ 35.7
12月	▲ 59.2	▲ 73.3	▲ 41.1	▲ 68.9	▲ 46.6
見通し	▲ 55.2	▲ 46.6	▲ 47.0	▲ 55.1	▲ 73.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成21年12月の業況についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲59.2(前月水準▲62.6)となり、マイナス幅が△3.4ポイント縮小した。

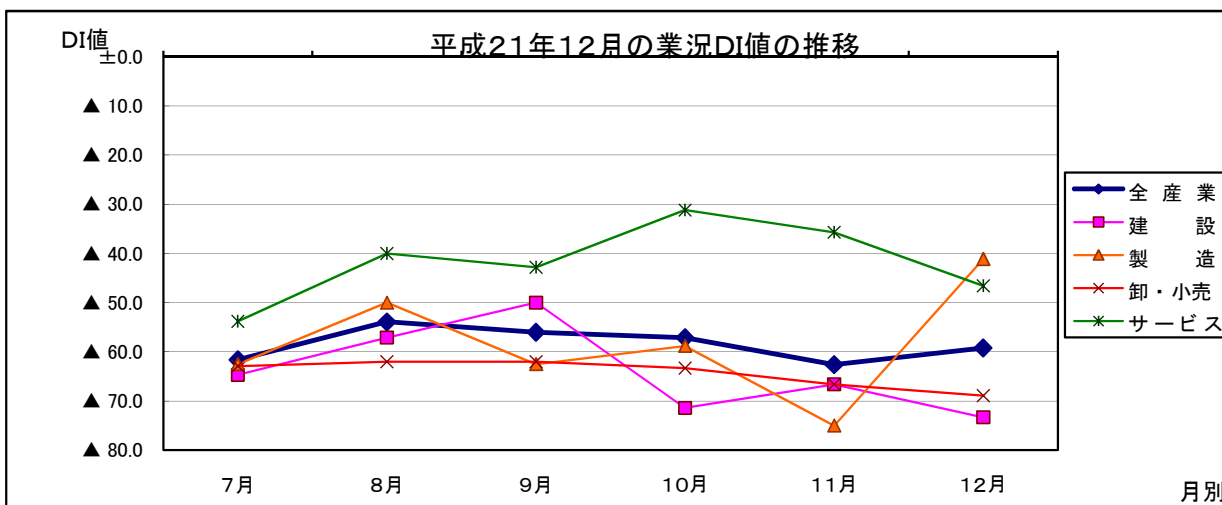
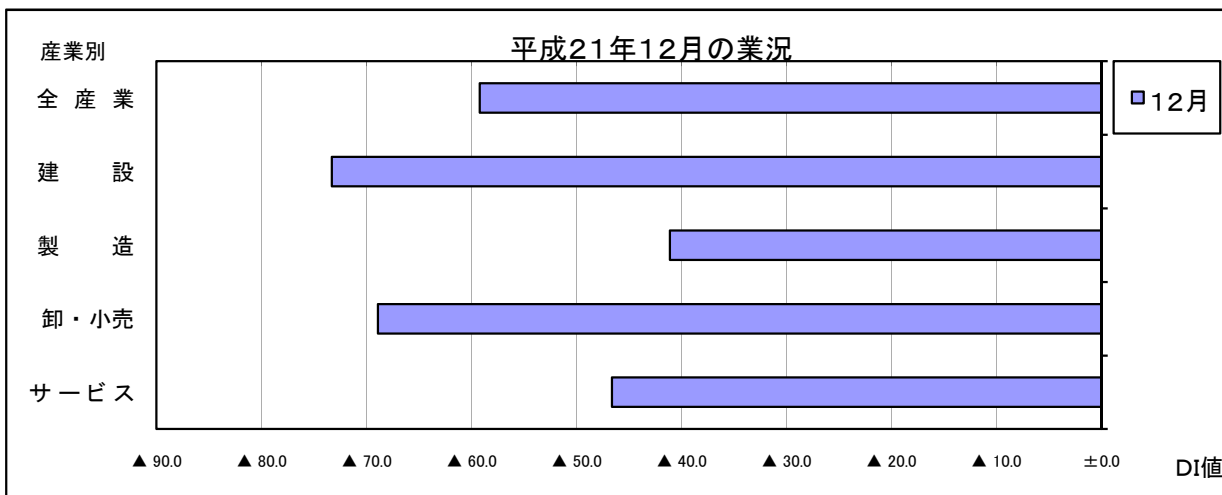
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲41.1(同▲75.0)であり、マイナス幅が△33.9ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲46.6(同▲35.7)、建設業▲73.3(同▲66.6)、卸小売業▲68.9(同▲66.6)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲55.2(前月水準▲36.0)となり、マイナス幅が▲19.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない見通しの業種は、建設業▲46.6(同▲46.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲73.3(同▲28.5)、卸小売業▲55.1(同▲36.6)、製造業▲47.0(同▲31.2)であり、特に、サービス業はマイナス幅が▲44.8ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成21年12月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月～3月(12月～2月)
全産業	▲61.6	▲53.9	▲56.0	▲57.1	▲62.6	▲59.2	▲55.2(▲36.0)
建設	▲64.7	▲57.1	▲50.0	▲71.4	▲66.6	▲73.3	▲46.6(▲46.6)
製造	▲62.5	▲50.0	▲62.5	▲58.8	▲75.0	▲41.1	▲47.0(▲31.2)
卸・小売	▲62.9	▲62.0	▲62.0	▲63.3	▲66.6	▲68.9	▲55.1(▲36.6)
サービス	▲53.8	▲40.0	▲42.8	▲31.2	▲35.7	▲46.6	▲73.3(▲28.5)



【平成21年12月の売上についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲60.5(前月水準▲64.0)となり、マイナス幅が△3.5ポイント縮小した。

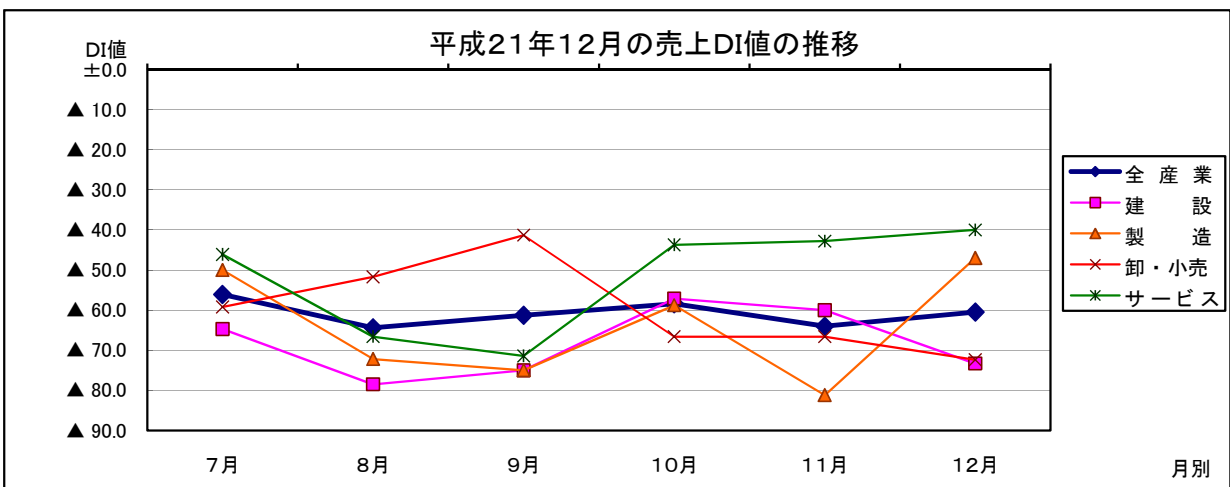
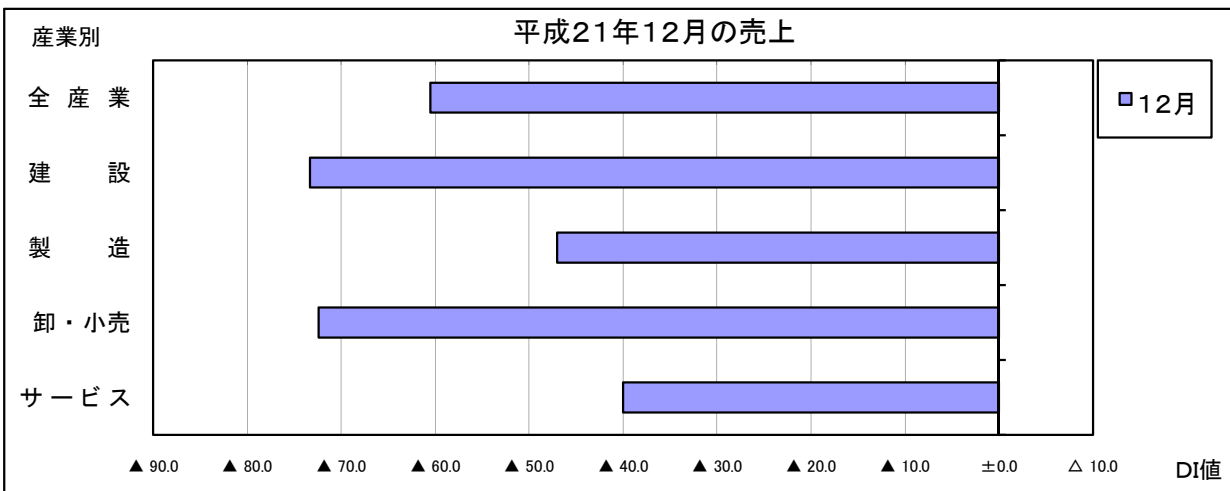
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲47.0(同▲81.2)、サービス業▲40.0(同▲42.8)であり、特に、製造業はマイナス幅が△34.2ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲73.3(同▲60.0)、卸小売業▲72.4(同▲66.6)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲46.0(前月水準▲37.3)となり、マイナス幅が▲8.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲46.6(同▲60.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲66.6(同▲42.8)、製造業▲23.5(同▲12.5)、卸小売業▲48.2(同▲36.6)であり、特に、サービス業はマイナス幅が▲23.8ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成21年12月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲56.1	▲64.4	▲61.3	▲58.4	▲64.0	▲60.5	▲46.0(▲37.3)
建設	▲64.7	▲78.5	▲75.0	▲57.1	▲60.0	▲73.3	▲46.6(▲60.0)
製造	▲50.0	▲72.2	▲75.0	▲58.8	▲81.2	▲47.0	▲29.4(▲12.5)
卸・小売	▲59.2	▲51.7	▲41.3	▲66.6	▲66.6	▲72.4	▲44.8(▲36.6)
サービス	▲46.1	▲66.6	▲71.4	▲43.7	▲42.8	▲40.0	▲66.6(▲42.8)



【平成21年12月の採算についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲50.0(前月水準▲57.3)となり、マイナス幅が△7.3ポイント縮小した。

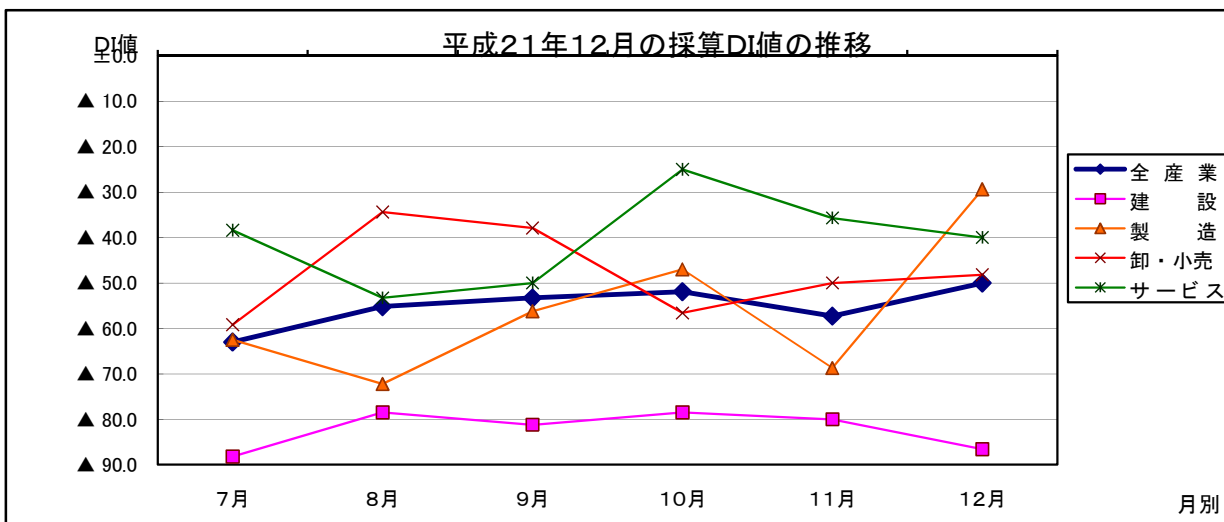
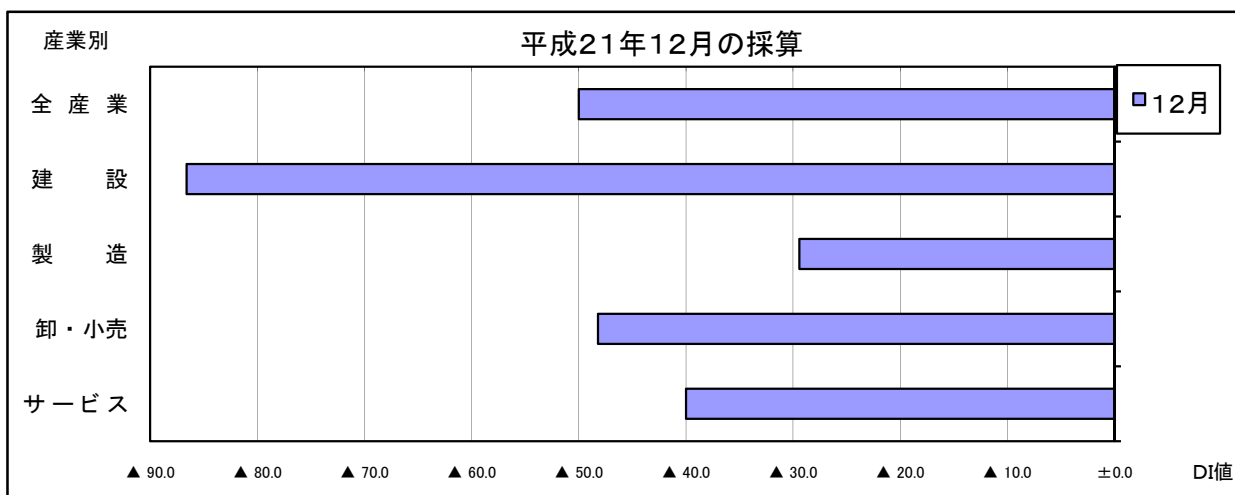
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲29.4(同▲68.7)、卸小売業▲48.2(同▲50.0)であり、特に、製造業はマイナス幅が△39.3ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲86.6(同▲80.0)、サービス業▲480.0(同▲35.7)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲47.3(前月水準▲37.3)となり、マイナス幅が▲10.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲53.3(同▲60.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲66.6(同▲42.8)、卸小売業▲48.2(同▲36.6)、製造業▲23.5(同▲12.5)であり、特に、サービス業はマイナス幅が▲23.8ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成21年12月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月～3月(12月～2月)
全産業	▲63.0	▲55.2	▲53.3	▲51.9	▲57.3	▲50.0	▲47.3(▲37.3)
建設	▲88.2	▲78.5	▲81.2	▲78.5	▲80.0	▲86.6	▲53.3(▲60.0)
製造	▲62.5	▲72.2	▲56.2	▲47.0	▲68.7	▲29.4	▲23.5(▲12.5)
卸・小売	▲59.2	▲34.4	▲37.9	▲56.6	▲50.0	▲48.2	▲48.2(▲36.6)
サービス	▲38.4	▲53.3	▲50.0	▲25.0	▲35.7	▲40.0	▲66.6(▲42.8)



【平成21年12月の仕入単価についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲3.9(前月水準▲4.0)となり、マイナス幅が△0.1ポイント縮小した。

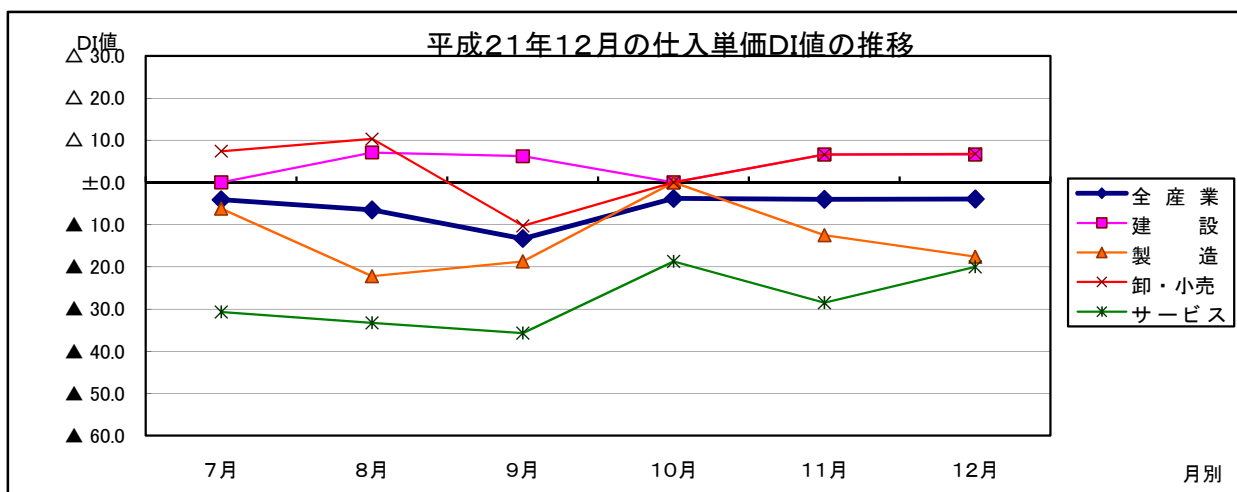
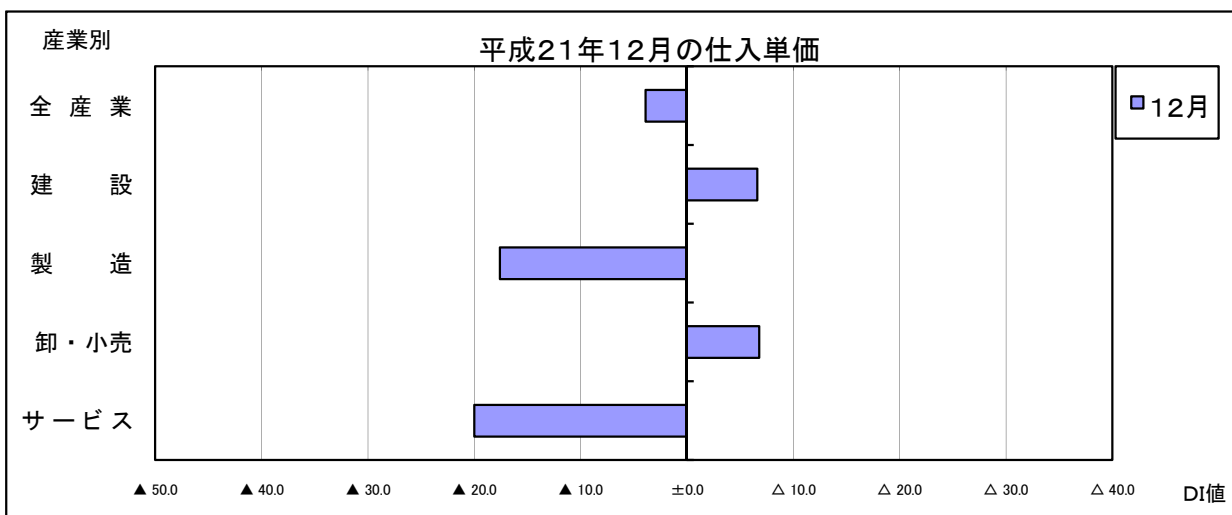
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、卸小売業△6.8(同△6.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲20.0(同▲28.5)である。変らない業種は、建設業△6.6(同△6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲17.6(同▲12.5)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、△2.6(前月水準▲12.0)となり、プラス幅へ△14.6ポイントと改善する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△6.8(同▲10.0)、製造業△5.8(同▲6.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲13.3(同▲50.0)であり、マイナス幅が△36.7ポイントと大幅に縮小する見通しである。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△6.6(同△13.3)である。

平成21年12月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月～3月(12月～2月)
全産業	▲4.1	▲6.5	▲13.3	▲3.8	▲4.0	▲3.9	△2.6(▲12.0)
建設	±0.0	△7.1	△6.2	±0.0	△6.6	△6.6	△6.6(△13.3)
製造	▲6.2	▲22.2	▲18.7	±0.0	▲12.5	▲17.6	△5.8(▲6.2)
卸・小売	△7.4	△10.3	▲10.3	±0.0	△6.6	△6.8	△6.8(▲10.0)
サービス	▲30.7	▲33.3	▲35.7	▲18.7	▲28.5	▲20.0	▲13.3(▲50.0)



【平成21年12月の従業員についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9.2(前月水準▲10.6)となり、マイナス幅が△1.4ポイント縮小した。

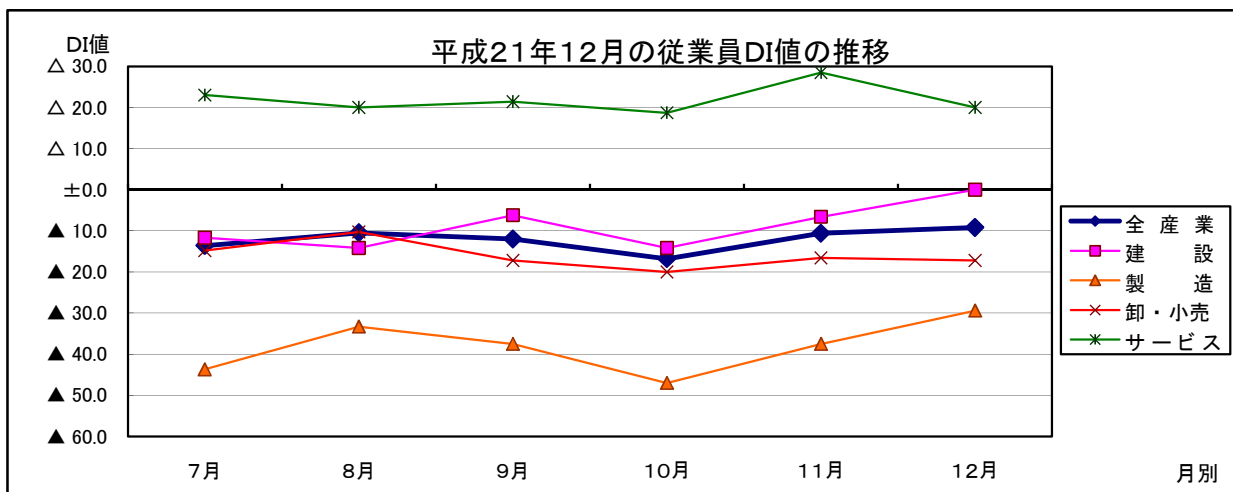
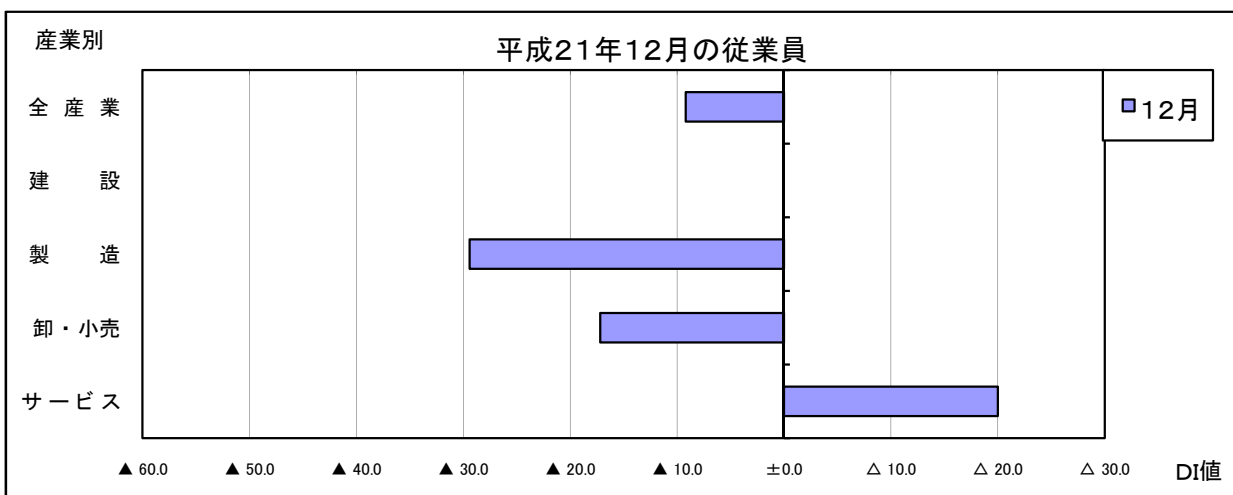
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲29.4(同▲37.5)、建設業±0.0(同▲6.6)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△20.0(同△28.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲17.2(同▲16.6)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.5(前月水準▲10.6)となり、マイナス幅が△0.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同▲20.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△13.3(同△14.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲13.7(同▲6.6)、製造業▲35.2(同▲31.2)である。

平成21年12月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲13.6	▲10.5	▲12.0	▲16.8	▲10.6	▲9.2	▲10.5(▲10.6)
建設	▲11.7	▲14.2	▲6.2	▲14.2	▲6.6	±0.0	±0.0(▲20.0)
製造	▲43.7	▲33.3	▲37.5	▲47.0	▲37.5	▲29.4	▲35.2(▲31.2)
卸・小売	▲14.8	▲10.3	▲17.2	▲20.0	▲16.6	▲17.2	▲13.7(▲6.6)
サービス	△23.0	△20.0	△21.4	△18.7	△28.5	△20.0	△13.3(△14.2)



【平成21年12月の資金繰りについての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.5(前月水準▲29.3)となり、マイナス幅が▲2.2ポイント拡大した。

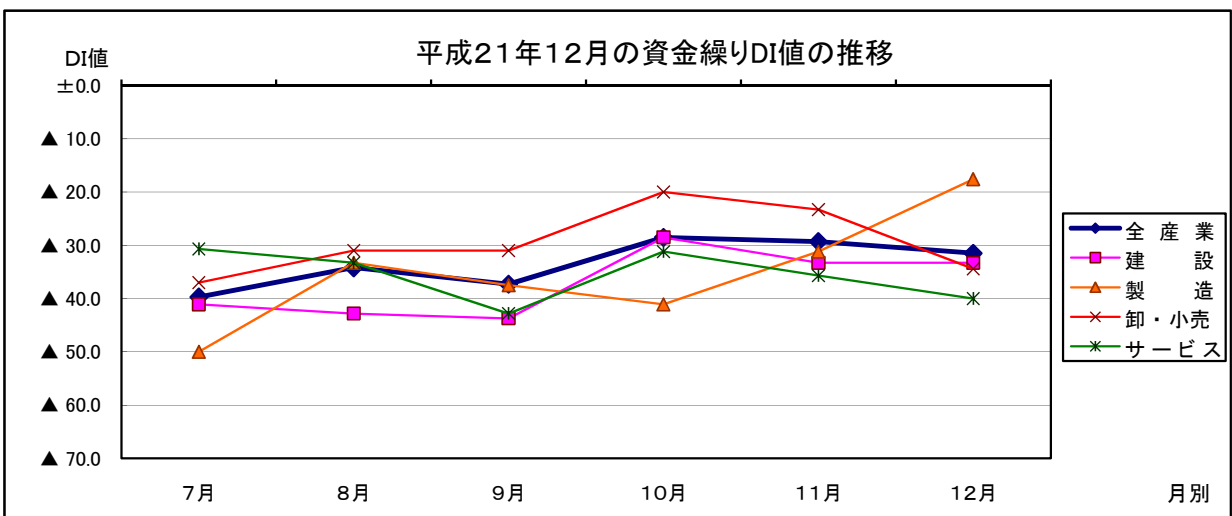
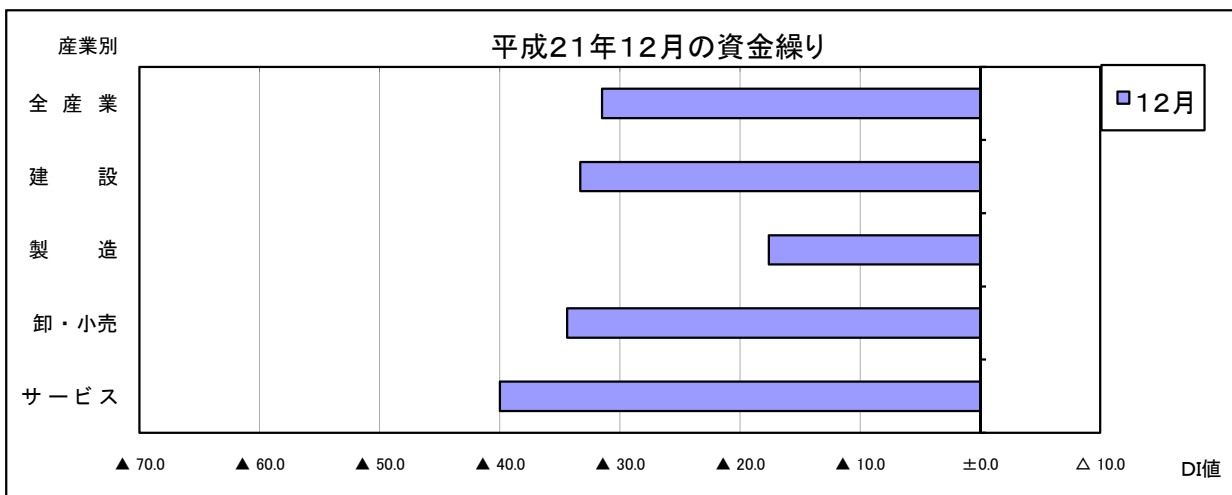
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲17.6(同▲31.2)である。変らない業種は、建設業▲33.3(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲34.4(同▲23.3)、サービス業▲40.0(同▲35.7)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.5(前月水準▲22.6)となり、マイナス幅が▲8.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業26.6(同▲40.0)、製造業▲23.5(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲46.6(同▲21.4)、卸小売業▲31.0(同▲13.3)であり、特に、サービス業はマイナス幅が▲25.2ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成21年12月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成21年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲39.7	▲34.2	▲37.3	▲28.5	▲29.3	▲31.5	▲31.5(▲22.6)
建設	▲41.1	▲42.8	▲43.7	▲28.5	▲33.3	▲33.3	▲26.6(▲40.0)
製造	▲50.0	▲33.3	▲37.5	▲41.1	▲31.2	▲17.6	▲23.5(▲25.0)
卸・小売	▲37.0	▲31.0	▲31.0	▲20.0	▲23.3	▲34.4	▲31.0(▲13.3)
サービス	▲30.7	▲33.3	▲42.8	▲31.2	▲35.7	▲40.0	▲46.6(▲21.4)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 60.5	▲ 46.0	▲ 50.0	▲ 47.3	▲ 3.9	△ 2.6	▲ 9.2	▲ 10.5
建設	▲ 73.3	▲ 46.6	▲ 86.6	▲ 53.3	△ 6.6	△ 6.6	±0.0	±0.0
製造	▲ 47.0	▲ 29.4	▲ 29.4	▲ 23.5	▲ 17.6	△ 5.8	▲ 29.4	▲ 35.2
卸・小売	▲ 72.4	▲ 44.8	▲ 48.2	▲ 48.2	△ 6.8	△ 6.8	▲ 17.2	▲ 13.7
サービス	▲ 40.0	▲ 66.6	▲ 40.0	▲ 66.6	▲ 20.0	▲ 13.3	△ 20.0	△ 13.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 59.2	▲ 55.2	▲ 31.5	▲ 31.5
建設	▲ 73.3	▲ 46.6	▲ 33.3	▲ 26.6
製造	▲ 41.1	▲ 47.0	▲ 17.6	▲ 23.5
卸・小売	▲ 68.9	▲ 55.1	▲ 34.4	▲ 31.0
サービス	▲ 46.6	▲ 73.3	▲ 40.0	▲ 46.6

【平成21年12月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	社会全体が良くなしないと回復は厳しいと思われます。 柏市公設市場移転計画や柏駅東口再開発事業計画が凍結され、今後の柏市発注の公共事業が不安	業況回復困難 公共事業	一般土木建築工事業 土木工事業(舗装、しゅんせつを除く)
	年内工事は忙しい状態だが、業況回復に結びつくまでにはいかない。 仕入値は不変ですが、販売価格は原価値になり、利益はほとんど無い状況です。デフレ対策を他社はどのように考えていますか？	業況回復困難 仕入値不変 販売価格下落 利益不振 デフレ対策	板金・金物工事業 管工事業(さく井を除く)
工業	先行きの不安感が景気を低迷させている。活気が出れば不況を持ちこたえられる力は十分にありと思う。	先行き不安	電気工事業
	12月だというのに仕事量が少ない。この先が心配です。	仕事量減少 先行き不安	紙製容器製造業
	ユーザーの状況が数カ月ごとに変更となるので、先の事はまだまだ不透明 引き続き建築基準法の改正により国交省認定の取得費用が多いため、経営に大きく負担を強いられている。 ユーザー元の設備導入はまだ聞こえてこず、厳しい状況にある。関係業者は国内欧米ともに設備投資の声がかかってこなく全く良くならない。車関係のパーツ業者ではアジア輸出が好調	建築基準法改正 経営圧迫 設備導入 国内欧米不振 アジア輸出好調	一般産業用機械設備製造業 その他の機械・同部分品製造業
卸小売	柏地区の景況は日本全体と同様です。デフレスパイラルの中政策のブレ・タイムラグもあり、企業業績の回復は当面見込めず、個人消費の伸びも見込めないでしょう。柏駅周辺の大型店の入店客数は軒並み2ケタ減となっている一方、周辺SCでは入店客数の伸びているところもあります。次年度は大型店といえども、存亡の瀬戸際に立たされる可能性があると思われれます。	デフレスパイラル 業績回復見込みなし 個人消費伸び悩み 大型店の存亡	百貨店
	ボーナスの減少、景況悪化に対する自己防衛等で売上上昇は当面見込みづらい。下取りセール、キャッシュバック等の策で需要の喚起を図る。	賞与減少 景況悪化 需要喚起策	百貨店
	今月の青果物総体は、入荷量やや減少、金額では1割以上の減、単価安と厳しい状況にあります。野菜では主要品の単価安、果物は入荷増に伴う単価安を維持。デフレの影響で買出しのお客様の仕入れ(購入)量や価格も慎重な取引となって消費不況も長引き経営改善に打撃。状況の難しさから打つ手が厳しい。日々の取引は自らのアイデアで景気良くする工夫を行い社内に対応し、安全安心な流通を維持しているところです。	青果入荷減少単価安 デフレの影響 消費不況 経営への打撃	食料・飲料卸売業
	求人広告を出したところ、過去にない位の多くの応募があった。 公共受注競争が激しい。地方の業者等が採算を無視した金額で落札するケースが目立つ。クリスマス・新学期関係の受注が昨年並みに回復。	求人募集 公共事業受注競争 採算無視 季節商材回復	菓子・パン小売業 その他の飲食料点小売業
	10銭単位で一喜一憂する、気が抜けない灯油価格。毎週変動する季節になった。器具販売が好調の由は見捨てていた部分もあったが、今はチェックを厳しくしている。細部にまで神経を使わなければならない苦しい今日この頃です。	灯油価格変動	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	業界全体の不況感おさまらず、お客様の注文購入が多様化してきた。特にインターネットを通しての購入形態と売り場面積の増加がみられる	不況感 注文の多様化 インターネット購入	書籍・文房具小売業
	周辺への大型店の出店、景気の低迷による来街者の減少に、客単価の下落が加わり、賞与の時期であるが、全く売上不振である。	大型店出店 景気低迷 客単価下落 売上不振	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	12月度入店客数は前年並みの推移となったが、クリスマスギフトなどの下見客が多く、売上高は前年を下回る推移となったが、季節商材にも動きが見られ、売上高も徐々に回復した。中旬にはクリスマスの音楽イベントを開催し、集客を図れたことから売上にもつながった。後半もクリスマス盛り上げ売上に繋げていく。	客数前年並み クリスマス商戦 季節商材回復	各種商品小売業

【平成21年12月の業種別業界内トピックス】

	最近商店会に白たい焼き屋がオープンした。どんな業種でも新たに出店はうれしい。	新店舗出店	書籍・文房具小売業
サービス	宿泊宴会とも売り上げ減少。販売客数販売件数減も、原価面を抑制、経費面特に光熱費が抑制されているが、利益はマイナス。一般企業の業績悪化から利益減少。	宿泊宴会減少 原価抑制 経費節減 利益減少	ホテル
	11月度において、キャンペーンを実施した。デフレの影響が飲物半額セールであったが、お客様の反応はそれほどではなかった。宴会シーズンではあったが、土日に集客は集中している。	デフレの影響 土日集客集中	酒場・ビヤホール

◎デフレの影響

- ・ 仕入値は不変ですが、販売価格は原価値になり、利益はほとんど無い状況です。デフレ対策を他社はどのように考えているのか。 管工事業
- ・ 柏地区の景況は日本全体と同様です。デフレスパイラルの中政策のブレ・タイムラグもあり、企業業績の回復は当面見込めず、個人消費の伸びも見込めないでしょう。 百貨店
- ・ デフレの影響で買出しのお客様の仕入れ(購入)量や価格も慎重な取引となって消費不況も長引き経営改善に打撃。状況の難しさから打つ手が厳し 食料・飲料卸売業
- ・ キャンペーンを実施したが、デフレの影響か飲物半額セールであったが、お客様の反応はそれほどではなかった。宴会シーズンではあったが、土日に集客は集中している。 酒場・ビヤホール

◎先行き不安

- ・ 先行きの不安感が景気を低迷させている。活気が出れば不況を持ちこたえられる力は十分にあると思う。 電気工事業
- ・ 12月だというのに仕事量が少ない。この先が心配です。 紙製容器製造業
- ・ ユーザーの状況が数カ月ごとに変更となるので、先の事はまだまだ不透明 その他の鉄鋼業

◎季節商材回復

- ・ クリスマス・新学期関係の受注が昨年並みに回復。 食料品・事務用品小売業
- ・ 12月度入店客数は前年並みの推移となったが、クリスマスギフトなどの下見客が多く、売上高は前年を下回る推移となったが、季節商材にも動きが見られ、売上高も徐々に回復した。中旬にはクリスマスの音楽イベントを開催し、集客を図れたことから売上にもつながった。後半もクリスマスを盛り上げ売上に繋げていく。 各種商品小売業











平成21年12月のCCI LOBOとの比較







- 【業況DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲59.2に対し、「CCI-LOBO」が▲63.8で、柏の方がマイナス幅が4.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業で、10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲60.5に対し、「CCI-LOBO」が▲61.2で、柏の方がマイナス幅が0.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業で、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲50.0に対し、「CCI-LOBO」が▲59.0で、柏のほうがマイナス幅が9.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業で、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲3.9に対し、「CCI-LOBO」が▲2.3で、柏の方がマイナス幅が1.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業・卸小売業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・サービス業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲9.2に対し、「CCI-LOBO」が▲21.2で、柏の方がマイナス幅が12.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【資金繰りDI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲31.5に対し、「CCI-LOBO」が▲41.8で、柏の方がマイナス幅が10.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、建設業・製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種はサービス業。




平成21年12月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較



景気天気図					
	特に好調 DI > 50	好調 50 > DI > 25	まあまあ 25 > DI > 0	不振 0 > DI > -25	極めて不振 DI < -25




業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 59.2	 73.3	 41.1	 68.9	 46.6
CCI LOBO	 63.8	 62.4	 59.4	 71.7	 58.6


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 60.5	 73.3	 47.0	 72.4	 40.0
CCI LOBO	 61.2	 54.6	 59.0	 68.2	 56.7


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 50.0	 86.6	 29.4	 48.2	 40.0
CCI LOBO	 59.0	 58.1	 56.9	 61.7	 57.2

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 3.9	 6.6	 17.6	 6.8	 20.0
CCI LOBO	 2.3	 10.6	 5.8	 5.0	 8.5

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 9.2	 ±0.0	 29.4	 17.2	 20.0
CCI LOBO	 21.2	 30.3	 31.4	 14.4	 10.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 31.5	 33.3	 17.6	 34.4	 40.0
CCI LOBO	 41.8	 49.8	 48.7	 37.0	 38.2

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(12月の調査結果のポイント)

調査期間：平成21年12月14日～18日

調査対象：柏市内107事業所及び組合にヒアリング、回答数76

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲61.6	▲64.7	▲62.5	▲62.9	▲53.8
8月	▲53.9	▲57.1	▲50.0	▲62.0	▲40.0
9月	▲56.0	▲50.0	▲62.5	▲62.0	▲42.8
10月	▲57.1	▲71.4	▲58.8	▲63.3	▲31.2
11月	▲62.6	▲66.6	▲75.0	▲66.6	▲35.7
12月	▲59.2	▲73.3	▲41.1	▲68.9	▲46.6
見通し	▲55.2	▲46.6	▲47.0	▲55.1	▲73.3

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

デフレの影響が顕著に

12月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じ)は、59.2(前月水準62.6)となり、マイナス幅が3.4ポイント縮小した。業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業(41.1)同(75.0)であり、マイナス幅が33.9ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業(46.6)同(35.7)、建設業(73.3)同(66.6)、卸小売業(68.9)同(66.6)の順である。

【建設業】では、「社会全体が良くならない」と回復は厳しいと思われる。(一般土木建築工事業)、「柏市公設市場移転計画や柏駅東口再開発事業計画が凍結され、今後の柏市発注の公共事業が不安」(土木工事業)、「年内工事は忙しい状態だが、業況回復に結びつくまでにはいられない」(板金・金物工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「引き続き建築基準法の改正により国交省認定の取得費用が多いため、経営に大きく負担を強いられている」(一般産業用機械設備製造業)、「ユーザー元の設備導入はまだ聞かなくて、厳しい状況にある。関係業者は国内欧米ともに設備投資の音がかかっている。車関係のパーツ業者ではアジア輸出が好調」(その他の機械・同部分品製造業)などの声が上がってきた。

【卸小売業】では、「ポータルの減少、景況悪化に対する自己防衛等で売上下昇は当分見込みづらい。下取りセール、キャッシュバック等の策で需要の喚起を図る」(百貨店)、「業界全体の不況感おさまらず、お客様の注文購入が多様化してきた。特にインターネットを通じての購入形態と売り場面積の増加がみられる」(書籍・文房

具小売業)、「周辺への大型店の出店、景気の低迷による来街者の減少に、客単価の下落が加わり、賞与の時期であるが、全く売上不振である」(各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】では、「宿泊宴会とも売り上げ減少。販売客数販売件数減も、原価面を抑制し、経費面特に光熱費が抑制されているが、利益はマイナス。一般企業の業績悪化から利益減少」(ホテル)のコメントがあった。

十二月の景気キーワード

デフレの影響

各業種から、「仕入値は不変ですが、販売価格は原価値になり、利益はほとんど無い状況です。デフレ対策を他社ほどのように考えているのだろうか」(管工事業)、「柏地区の景況は日本全体と同様です。デフレスパイラルの中政策のブレ・タイムラグもあり、企業業績の回復は当面見込めず、個人消費の伸びも見込めないでしょう」(百貨店)、「デフレの影響で買いたしのお客様の仕入れ(購入)量や価格も慎重な取引となつて消費不況も長引き経営改善に打撃。状況の難しさから打つ手が厳しい」(食料・飲料卸売業)、「キャンペーンを実施したが、デフレの影響が飲物半

額セールであったが、お客様の反応はそれほどではなかった。宴会シーズンではあったが、土日に集客は集中している」

先行き不安

各業種から、「先行きの不安感が景気を低迷させている。活気が出れば不況を持ちこたえられる力は十分にあると思う」(電気工事業)、「12月だといつのに仕事量が少ない。この先が心配です」(紙製容器製造業)、「ユーザーの状況が数カ月ごとに変更となるので、先の事はまだまだ不透明」(その他の鉄鋼業)などのコメントがあった。(酒場・ビヤホール)などといった、売上減少の声も多く寄せられた。

季節商材回復

「各業種から、「クリスマス・新学期関係の受注が昨年並みに回復」(食料品・事務用品小売業)、「12月度入店客数は前年並みの推移となったが、クリスマスギフトなどの下見客が多く、売上高は前年を下回る推移となったが、季節商材にも動きが見られ、売上高も徐々に回復した。中旬にはクリスマススの音楽イベントを開催し、集客を図れたことから売上にもつながった。後半もクリスマススを盛り上げ売上に繋げていく」(各種商

品小売業)などのコメントがあげられた。

CCI・LOBOS比較

全産業合計では、「柏の景気が59.2に対し、CCI・LOBOS」が63.8で、柏の方がマイナス幅が4.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業で、10ポイント以上悪い。

C C I - L O B O

商工会議所早期景気観測(12月速報)

調査期間：平成21年12月14日～18日
 調査対象：全国の408商工会議所が2623業種
 組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況 業況DIは、3カ月振りに マイナス幅拡大

12月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、63.8と、前月に比べ3.8ポイントと、3カ月振りにマイナス幅が拡大した。業況は、雇用環境が最も厳しかった2009年7月(63.6)の景気後退局面の最悪月(2002年2月・63.1)と同水準の極めて厳しい状況となってきた。DI値のマイナス幅は製造業、卸売業ではほぼ横ばいで推移、建設業、小売業、サービス業の3業種で拡大した。

先行きについては、5.6(8)前月比、5.9ポイント)と、4カ月連続でマイナス幅が拡大した。先行きの悪化はすべての業種に及んだ。デフレによる販売価格の低下、雇用・所得不安に伴う個人消費・住宅建設の減退、公共工事の減少懸念、円高の影響などから、先行きへの不安感は広がっている。「売上回復が期待できず、廃業する企業が多くなっている」とこの報告も増え、12月8日に発表された緊急経済対策の早期執行を求める声が高い。2010年の業況見通しについては、「低水準の横ばい状態」という声が過半数を占めた。「一番底を懸念する」という声も4

割にのぼり、「持ち直す」との声はわずかだった。

【建設業】「公共工事も少なくなり来年も厳しい状況が続く。ボーナスも支給されない事業所が多い(土木事業)」「官民ともに工事量が減少しており、経営状況は厳しい。今後建設業界の廃業・倒産の影響で失業者が50万人に達すると予想している(建設事業)」「業界の中では廃業も視野に入れざるを得ない事業所もある(塗装工事事業)」「製造業」「円高の影響により輸出市場での価格競争が不利になっている(繊維機械製造業)」「業界を取り巻く環境は依然厳しく、一時帰休を継続している企業もある。年明け以降も安定した受注が見込めない状況(金属加工機械製造業)」「かなり高い操業をしている企業もあるなど業種により差がある。また、同業他社の廃業により仕事が増えた企業もある(一般産業機械製造業)」「卸売業」「個人消費停滞、暖冬デフレによる物価下落や需要低迷などから、追加リストラを検討する必要がある(各種卸卸売業)」「個人消費は低価格志向にあり、小売の店頭において低価格競争が激しく、製造、卸、小売が共倒れするのではないかと懸念している(農畜産水産物卸売業)も

う何番底なのかわからない。デフレ対策等を進めていかなければ、中小企業の経営存続は難しくなる(衣服・日用品卸売業)」「小売業」「ボーナス商戦期間中である週末の売上が近年例にないほど悪い(その他小売業)」「価格競争が厳しく値崩れも激しい状況で利益減少が続いている(百貨店)」「長年取引していた問屋が廃業し、段々仕入先が少なくなってきた(商店街)」「サービス業」「消費の低迷に加え、デフレの影響で客単価が下がっている。来年はこれまでで最も厳しい年になると予想している(食堂・レストラン)」「年末年始の帰省客、観光客も期待できず、企業の忘年会、新年会も少ない。同業者のあいさつは『景気が悪い』が決まり文句になっている(他的一般飲食店)」「円高の影響で、外国人観光客が減少している(旅館)」「膨らむ先行き不安

年明け以降の仕事情の減少や所得・雇用の悪化など、先行き不安についての声が多く寄せられた。「工事量の減少が予想され、先行きが見えない(長岡・一般事業)」「同業大手の民事再生法など、繊維を取り巻く環境は悪化が続いてい

る。今後の連鎖倒産、廃業が危惧される(一宮・織物製造業)」「景気回復の見通しが立たない。設備投資が増えなければ厳しい(延岡・建設建築用金属機械製造業)」「返済猶予後の新たな借入ができるかどうか不安で借換えに踏み切ることができない(茨城・農畜産水産物卸売業)」「デフレの進行

販売価格が下がり、採算が悪化している企業が6割近くに達するなど、デフレの進行について「声が多く寄せられた。」「小売業者からの値下げ圧力を感じる。価格を下げても期待した注文数とはかけ離れている(上田・調味料製造業)」「卸売業者からも、もち米を安くするから買ってくれと言われ値下げしてもらった。デフレの影響で仕入価格が下落している(倉敷・パン・菓子製造業)」「高いものは売れない。売上が減っても仕入価格も下がっている。採算は維持しているが、この状況が長期化するとじり貧となつて厳しい(御坊・農畜産水産物卸売業)」「デフレの影響で販売価格を下げざるを得ない。仕入れ業者に値下げを依頼(倉敷・百貨店)」「雇用情勢のさらなる悪化
 受注、売上の減少など企業の収益状況のさらなる悪化から雇用の過剰感が増している」という声も寄せられている。「業

況は回復せず厳しい状況で、従業員に過剰感がある(赤穂・金属加工機械製造業)」「業種により依然減産の動きが見られるなど予断を許さない。操業時間調整は続き、雇用環境に厳しさが広がっている(新居浜・一般産業用機械製造業)」「雇用や賃金体系の見直しを検討している(函館・水産食料品製造業)」「来年3月までは、雇用調整助成金による教育訓練を継続実施する予定(川口・鉄素形材製造業)」「生産調整をしながら、派遣やパート社員などの人員削減を進めている(静岡・自動車部品・同附属品製造業)」「リストラおよび支店閉鎖する企業が多くなっている(宇都宮・百貨店)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
7月	▲63.6	▲61.2	▲65.7	▲65.5	▲65.1	▲60.3
8月	▲59.6	▲56.3	▲62.9	▲61.1	▲60.7	▲56.3
9月	▲61.4	▲57.5	▲67.0	▲56.8	▲64.0	▲56.9
10月	▲60.6	▲64.1	▲62.4	▲65.4	▲62.9	▲51.8
11月	▲60.0	▲55.5	▲60.2	▲67.7	▲64.3	▲54.8
12月	▲63.8	▲62.4	▲59.4	▲67.1	▲71.7	▲58.6
見通し	▲56.8	▲59.8	▲51.7	▲53.1	▲61.0	▲56.6

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI